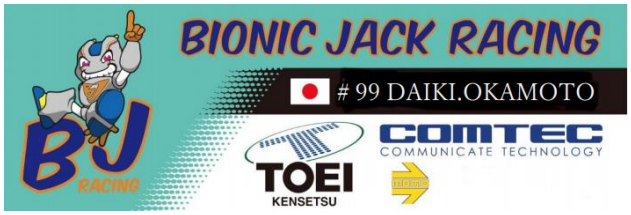
Bionic Jack Racing FIA-F4 レースレポート



【FIA-F4 選手権シリーズ第 3 戦・第 4 戦】

鈴鹿サーキット（三重県：5.807km）
8 月 21 日（土）予選、決勝レース第 3 戦：曇り／ドライ　入場者数：7,000 人
8 月 22 日（日）決勝レース第 4 戦：晴れ／ドライ　入場者数：11,500 人

＃97 岩澤　優吾　BJ Racing スカラシップ
＃98 岡本　大輝 BJ Racing

岩澤優吾が 2 戦ともにポイント獲得、5 戦連続で入賞を果たす
バトルを重ね続けた岡本大輝、着実に一歩ずつ成長遂げる。

今年で 7 シーズン目を迎え、その歴史の中で数多くのドライバーを鍛え、上級カテゴリーへ送り出していった FIA-F4 選手権シリーズに、高木真一監督が指揮を執る Bionic Jack Racing は、今年も 2 名のドライバーを走らせる。
「#97 BJ Racing スカラシップ」を走らせる岩澤勇吾は、FIA-F4 で 2 年目のドライバー。チームを移籍しての参戦となる。
一方、「#98 BJ Racing」は新加入の岡本はスーパーFJ からステップアップしてきたドライバーで、残りの全戦をドライブする事が決定している。

富士スピードウェイの第１大会こそ、予定どおり開催されたが、５月 29～30 日に行われるはずだった、鈴鹿サーキットの第２大会が延期。ツインリンクもてぎの第３大会を間に挟んで、シリーズ第３戦、第４戦を行うこととなった。もてぎでは岩澤が３戦ともに入賞果たし、また岡本も激しいバトルを経験したことにより、ともに著しい成長ぶりをうかがわせた。
鈴鹿サーキットは世界にも名だたる、超テクニカルサーキット。低速から高速までバランスよくコーナーが２本のストレートの間に配され、リズミカルなドライビングを要することで知られている。ドライバーとしての進化を試されるサーキットで、岩澤と岡本がどれだけ評価を高めるか注目された。
◆予選
＃97 岩澤　優吾　BJ Racing スカラシップ
：第３戦・12 番手／第４戦・11 番手

＃98 岡本　大輝 BJ Racing
：第３戦・13 番手／第４戦・13 番手

先週から今週の半ばまで、全国的に大雨に見舞われてきたが、週末になれば天候は回復するというのが数日前までの予報だった。だが、実際には専有走行が行われた金曜日は、早朝までに雨はやんだもののセッション１は最後までウェットコンディション。セッション２になってようやくドライタイヤが履ける状態にはなったが、状態が安定するまでには至らなかった。
そんな状況において、こと岩澤はウェットコンディションでは確実な手応えをつかんでおり、2 分 29 秒 346 をマークして 3 番手に。岡本もまた 8 番手で 2 分 31 秒 077 を記録していた。ただし、ドライコンディションにおいては岩澤が 2 分 9 秒 725 で 9 番手、岡本は 2 分 10 秒 106 で 12 番手と、まだまだ合わせ込みが必要な感は否めなかった。
公式予選はいつものように 30 分間の計測で、土曜日の 8 時 10 分からスタート。未明に降った雨が路面の一部に残っていたが、ライン上は乾いており、コンディションは後半の方が向上するのは明らかだった。ただ、鈴鹿の予選は赤旗が出やすく、その意味では早めの仕掛けも必要となる。
特に岩澤は、そのあたりを意識して計測１周目から 2 分 11 秒台に入れ、次の周には 2 分 9 秒 324 を記した……のだが、その直前にデグナーでストップした車両があって赤旗が出され、直後に計測ラインを通過したため、このタイムはカウントされず。再開後の計測時間は 18 分強。2 分 9 秒 200、2 分 9 秒 241 とベスト、セカンドベストとなるタイムを連発した岩澤だったが、終了間際のタイムは伸び悩んだことから、第３戦は 12 番手、第４戦は 11 番手という結果に甘んじた。
一方、岡本は再開後にテンポ良く１周ごとタイムを詰めていき、ラスト２周のアタックで 2 分 9 秒 383、2 分 9 秒 293 を記録していたことで、２戦とも 13 番手という結果を残すこととなった。

岩澤優吾
「ドライのバランスを、今まで試したことのないセットでやってみたんですが、若干ウェット寄りすぎて悪くはなかったんですが、クルマが柔らかかった感じもありました。正直、不本意な結果です。決勝はウェットならペースがあるので、追い上げられると思うんですが、ドライだったらまだ改善しないといけないと思うので、もう一度さっきのフィーリングを話し合って考えていきます。」

岡本大輝
「けっこうクリアで走れていたし、位置取りも悪くなかったんですが、もうちょっと時間があれば……。たぶん『これから』という手応えが、あったところで終わってしまいました。路面はほぼドライで、ライン外しても最後は普通のドライみたいな感じにもなっていたので。決勝はスタートをミスせず、いいバトルして終わりたいと思います」

■決勝レース第３戦
＃97 岩澤　優吾　BJ Racing スカラシップ：８位
＃98 岡本　大輝 BJ Racing：13 位

決勝レース第３戦は、スタート前に一波乱が。全車グリッドに並べられた直後に、大粒の雨が落ち始めたのだ。ウェット宣言が出され、インディペンデントカップの車両の大半がウェットタイヤに換える中、進行の 10 分ディレイが伝えられる。しかし、皮肉なことに雨はやんでしまったのだ。サーキット周辺では大雨が降っており、雨雲が近づいていたことから、判断は迷うところ。岩澤を含め、上位陣はドライタイヤのまま動じなかった一方で、岡本は勝負に出てウェットタイヤを選択する。
結論から先に言えば、雨はレース中盤に降り、全体のアベレージを下げたものの、ウェットタイヤのタイムが勝るまでには至らず。レースはセーフティカー(SC)スタートでの開始となる。
SC２周の先導の後にリスタートが切られ、１周だけで岩澤は２台をパスして 10 番手に浮上。前を行く車両がドライビングスルーペナルティを課せられたため、６周目には９番手に。
８周目から再び SC が、シケインでストップした車両を回収するため導入され、レースは残り１周で再開される。前後ともにピタリ続いた状態ながら、しっかりポジションを保った岩澤は９位でゴール。

だが、ペナルティを課せられ、降格した車両があったため、ひとつ順位を繰り上げ、8 位を得ることとなった。一方、岡本は同じウェットタイヤ装着の車両と競い合うのが、精いっぱいの状況に。ラスト 1 周にドライタイヤで追い上げてきた車両にかわされ、14 位でのゴールとなったが、やはり繰り上がって 13 位という結果となった。

岩澤優吾
「絶えず前とバトルしながらのレースだったんですが、路面の判断、乾いているか濡れているか、状況判断を自分でも早く、もう半周ずつ早くできていれば、前にも上がれたと思うので、そこは自分のドライビング、走り方を完全していかないといけないと思いました。明日もドライだったら、もう一回見直して対策をしていこうと思います」

岡本大輝
「タイヤ選択は自分の判断です。待っている時に大量に降ってくる予定だったんですが、実際にはたいして降らなくて。その選択ミスが痛かったですね。同じウェットタイヤのクルマとは、コーナーでは離されなかったし、厳しい状況の中で踏ん張って、スピンせずに済んだのは良かったと思っています」

■決勝レース第 4 戦
＃97 岩澤　優吾　BJ Racing スカラシップ： 9 位
＃98 岡本　大輝 BJ Racing：13 位

日曜日の決勝レース第 4 戦こそ、自信のあるウェットコンディションで……という、岩澤の願いは天に届いてくれなかった。
それどころか、このレースウィークに入って初めて雲の切れ間から、晴れ間が見えるようになったほど。岩澤はスタートを無難に決めて、まずはポジションキープでレースを開始する。その後も前とは離れず、しっかり続いて逆転のチャンスを待つ。 6 周目から S 字で停止した車両を回収するため、 2 周にわたって SC が導入され、隊列が詰まったことから、チャンスも訪れるかと思われた。リスタート後に 1 コーナーでコースアウトした車両があり、これで岩澤は 10 番手に浮上。 9 周目に一台にかわされてしまうも、やはり直後の 1 コーナーで後退した車両があり、また 10 番手に順位を戻すこととなる。前を行く車両は、目と鼻の先。しかし、逆転の決め手を欠いたまま、チェッカーが振られることに。
しかし、レース後にペナルティを受けて降格した車両があったため、ひとつ順位を上げて岩澤は 9 位に。これで前大会もてぎから続く入賞を、 5 連続にまで伸ばすこととなった。
岡本はオープニングラップに順位を落とし、15 番手からのレース開始となった。 3 周目にも一台にかわされ、16 番手にドロップ。SC 明けの先行車両の相次ぐ後退、そしてペナルティによる降格によって 13 位となったが、不本意な気持ちのままレースを終えることとなった。
次回のレースはスポーツランド SUGO、9 月 11〜12 日に開催される。ルーキーの岡本はもちろん、昨年 SUGO で FIA-F4 は開催されなかったため、岩澤にとっても初めてレースするサーキットだ。適応力が問われる大会で、どんな走りを見せてくれるか注目される。

岩澤優吾
「ドライのセットアップがうまくいかなかったのはあるんですけれど、もうちょっと自分でもレースを通してクルマを早く作れるようにしないといけないですね。自分のバトルの部分でも課題はあるので、そこはしっかり改善して。バトルはもうちょっとうまく混戦を抜けられるようにしていきます。SUGO ではレースしたことなくて、初めてなのでテストにも行って、ちゃんと詰めていかないと SUGO でもまたヤバいので、いろいろオンボードとかも見て、しっかり研究していきたいと思います」

岡本大輝
「なんか全体にトラクション悪くて、そのせいで離されて全然追いつけませんでした。でも、予選の時よりは良くなっていたとは思います。それでも改善しなくてはいけないところが、たくさんあると感じたレースウィークでした。次の SUGO は全然経験ないので、テストで改善して、もっと上位に行けるように頑張ります」